

(仮称) ファミール産院いちかわ

継承の経緯と、以後の役割、機能について

<本件経緯について>

わたなべ医院（産婦人科分娩施設：千葉縣市川市奉免町 201 番地 5）より、本年、2020 年 9 月末をもって分娩の休止、施設の閉鎖を検討しているが、出来れば、地域の患者さんに迷惑や心配がかからないように、分娩体制が維持できる道筋を探したいと相談をいただきました。渡辺先生の強い意思を受け、当院の理念にもある「地域のお産を守る」の方針に沿い、継承契約に合意、業務を引き継ぐことと致しました。

わたなべ医院は、長年に渡り地域のお産を支えて来られた施設です。年間約 300 件～400 件の分娩を担われてきましたが、渡辺先生のご年齢が、70 歳を超えたことや継承者が不在であることが理由になります。上記の通り、両法人は継承に合意しており、施設をそのままに使用して、同年 10 月 1 日より新体制で診療と分娩の継続をする予定です。

手続き上の理由で、診療や分娩が滞り、患者さんに迷惑や心配がかからないよう、途切れることなく、地域の皆様が安心して、お産が出来ますことを切に願っております。

<マザーキーグループについて>

2005 年、杉本雅樹（現・理事長）が前任者より施設を継承して千葉県館山市にて「ファミール産院たてやま」を開業しました。2014 年には、千葉県君津市の要望に応じて「ファミール産院きみつ」を、2015 年に「なのはなクリニック」をオープン、さらに継承者不在ながらも地域のお産を守ること望んでおられた千葉市の「柏木産婦人科」をグループ施設として継承いたしました。現在、グループ全体で 4 施設（47 床）を運営していますが、規模拡大が目的ではなく、地域の分娩施設の維持・存続を第一に考えて展開しております。

<今後の役割、機能について>

全国の 1 次分娩施設の課題は医師の高齢化と継承者不在です。そのような中、理事長である杉本雅樹は 48 歳と若く、今回、自らが市川市の医師として着任する予定にしております。また当グループには複数の医師が在籍しているため、相互サポートの体制も整っており、長期に渡り、地域の分娩を守り抜く環境があります。

また、早期に市川総合病院など基幹施設と連携体制を構築し、その後は、当院の特徴でもある産科救急、母体搬送、緊急時の対応についての講習会を実施して、地域の先生方にも御指導をいただきながら、地域の母体死亡率や、重症化症例の減少に努めたい所存です。

以上、何卒よろしくお願い申し上げます。

(次ページに概要)

<参考資料>

【当該施設概要】

名 称：(仮称) ファミール産院いちかわ
診療科：産科・婦人科（分娩を取り扱う診療所）
所 在：千葉県市川市奉免町 201 番地 5
建 物：鉄筋コンクリート 2 階建（1 階：389.31 m² 2 階：366.44 m²）
病 床：6 室・14 床
医 師：3 名
総従業員数：35 名

【当該施設の直近の実績】

外来数
1 日の平均外来数約 50.6 人
分娩件数
2018 年：306 件
2019 年：356 件

【法人概要】

現在の法人：医療法人社団わたなべ医院 理事長 渡邊徹
継承する法人：医療法人社団マザー・キー 理事長 杉本雅樹
継承の時期：令和 2 年 10 月 1 日を予定